

郡上農林事務所の普及活動状況 令和7年5月31日現在

今月の重点活動

■水稲 堆肥を活用した水稲実証ほの移植始まる

郡上地域では堆肥の利用が課題となっているため、牛糞と鶏糞の混合堆肥をペレット化し、水稲への活用を検討している。また、全農岐阜でも環境保全型農業や生産費の低減のため堆肥の活用を推進している。

そこで、担い手リーダーである(株)丸利ライス、(有)おくみの農援隊、(有)エヌシーアイに、堆肥を活用した水稲栽培への協力を依頼し、実証ほを設置することになり、5月14日から移植が始まった。

また、実証ほでは、脱プラ対策として基肥一発肥料、高温対策として品種「ZR1」「きぬむすめ」も併せて試験している。

農業普及課は、関係機関と連携しながら調査を行い、堆肥利用、高温対策、脱プラ対策等の普及性を検討していく。



【実証ほでの移植作業】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■就農支援 「ぎふアグリチャレンジフェア」で就農相談対応

地域農業の担い手を確保するため、郡上市ほか中濃地域の市町村、JAめぐみの、農林事務所等で構成される「中濃地域就農支援協議会」は、5月31日に岐阜市で開催された「ぎふアグリチャレンジフェア」に参加し、就農相談に応じた。

就農相談ブースには、9名の相談者が訪れ就農するための準備、心構え、研修体制について熱心に耳を傾けていた。また、就農支援セミナーでは、令和6年に郡上市に就農した夏いちご生産者が、就農までの経緯、これから農業を始めたい人へ助言等、自らの体験を発表された。

農業普及課は、今後も各種就農相談に対応し、地域の農業の担い手確保を継続する。



【就農相談対応状況】

郡上農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 地区別研修会を開催

郡上市では高標高地域（高鷲、石徹白）から低標高地域（八幡、和良）にかけてトマトが栽培されており、地域の状況に合わせた栽培管理が必要である。

郡上夏秋トマト部会は、5月14、15日に管内を4地域に区分し、地域毎に現地研修会を開催し、部会員の栽培技術の向上に努めた。

農業普及課は、定植後～梅雨時期の草勢維持を図るため、急激な天候の変化に合わせた対策や少量多かん水・通路かん水の積極的な実施によりトマトの生育を促すことについて説明した。

近年は気象災害や病害虫被害が収量低下の一因となっているが、若手生産者も増えてきていることから、栽培技術の徹底により収量の向上を図っていく。



【研修会の状況】